

電気通信大学 平成20年度シラバス

| | | | |
|---------|--------------------|----------|-------|
| 授業科目名 | メディアリテラシーC | | |
| 英文授業科目名 | Media Literacy C | | |
| 開講年度 | 2008年度 | 開講年次 | 3年次 |
| 開講学期 | 前学期 | 開講コース・課程 | 昼間コース |
| 授業の方法 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 科目区分 | 専門科目-学科専門科目-選択必修科目 | | |
| 開講学科・専攻 | 人間コミュニケーション学科 | | |
| 担当教官名 | 吉浦 裕 | | |
| 居室 | 西6-611 | | |

| | |
|-----------------------|------------|
| 公開E-Mail | 授業関連Webページ |
| yoshiura@hc.uec.ac.jp | |

| |
|--|
| 【主題および達成目標】 |
| <p>コミュニケーションは、個人の日常会話から組織の情報伝達、社会への情報発信など多岐にわたっており、人間の最も普遍的で重要な活動です。コミュニケーションの形態・機能は、コンピュータネットワークや携帯電話ネットワークを用いたWeb, blog, SNS, 電子メール, 電子会議システムによって急速に拡大し多様化しており、さらに、これらのコミュニケーションツールはWeb 3.0と呼ばれる新しい段階を迎えています。</p> <p>メディアリテラシーCの主題は、これらのコミュニケーションツールを理解し使いこなすこと、さらには、新しいコミュニケーションツールを自分で発想し研究・創造する能力を身につけることです。</p> <p>そのために、現在の様々なコミュニケーションツールの基礎となっているWebシステムの理解を目標とします。加えて、今後ますます重要となるネットワークプログラミングの基礎を習得することも目標とします。</p> |

| |
|-------------------------|
| 【前もって履修しておくべき科目】 |
| なし |

| |
|----------------------------------|
| 【前もって履修しておくことが望ましい科目】 |
| メディアリテラシー, アルゴリズムとデータ構造, 数理モデル概論 |

| |
|-----------------------------------|
| 【教科書等】 |
| 最速攻略 CGI/Perl 作り方入門, KENT著, 技術評論社 |

【授業内容とその進め方】

講義と実習の二部構成とします。講義では、コンピュータネットワークおよびWebシステムの原理、機能の説明、最新のコミュニケーションツールの紹介を通じて、コミュニケーションツールの利用と発想のための幅広い知識を学びます。実習では、様々なコミュニケーションツールの基礎となるWebシステムを取り上げ、ホームページの具体的な作成実習を通じて、利用と発想のための素養、ネットワークプログラミングの基礎を身につけます。

なお、担当教員が3月25日から5月12日までドイツに海外出張するため、4月9日（水）の1回目授業は、ネットワーク経由でドイツから講義をします。2回目以降の授業は、5月14日（水）から再開し、不足分を7月に集中講義とします。7月のスケジュールは4月9日に連絡します。

(1) コミュニケーションツールの講義

- ・コンピュータネットワークの発展と関連技術（blog, SNS, Web2.0, 3.0, 情報/物理統合など）
- ・インターネットの技術概要
- ・Webシステムの構造と機能

(2) コミュニケーションツールの実習

- ・ホームページ掲載までの全体的な流れ
- ・HTMLによるテキストページ、画像の使用
- ・CGIによる様々な対話機能（アンケート、掲示板）およびセキュリティ（パスワード）

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法

授業参加度、レポート、作成したホームページの総合評価とします。

(b) 評価基準

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とします。

- ・授業回数の半分以上の出席
- ・レポートと作品の提出

【オフィスアワー：授業相談】

水曜日5限

電気通信大学 平成20年度シラバス

【学生へのメッセージ】

ホームページの作成実習では、基礎的な課題を出しますが、余力のある人には高度な技術を駆使して「おもしろい作品」を作することを期待します。

ネットワークプログラミングの重要性を理解してほしいと思います。

携帯SNSのような新しいツールを見たときに、それを用いて社会をどのように変えることができるか、そのためにはどのような課題があるのか、課題解決には何をすればいいのか、がひらめき、自分の研究を立ち上げたり、企業に企画提案できるような人になってほしいと思います。さらには、新しいツールを見て何かを考えるのではなく、新しいツールを自分で創造できる人になってほしいと思います。

【その他】

なし